さらに、日本海が誕生した約 1,700 万年前には海浸期に伴う砂岩・礫岩・シルトを主体とする 堆積岩からなる下戸層・鶴子層・中山層が形成され、これらの地層が隆起運動により変形しなが ら海上に現れ、佐渡島が誕生したとされる。

金銀鉱床は、マグマの熱水作用によってできる石英脈の中に多く濃縮して含有される。大佐渡山地に分布する金銀鉱床の多くは、相川層群を貫く熱水性鉱脈鉱床で、鉱床を含む地層は、入川層(大立層)・相川層に限られる。佐渡島内には至る所に石英脈が分布し、代表的なものが相川層中の含金石英脈で、相川金銀山をはじめ、鶴子銀山などが該当する。一方、西三川川流域の砂金鉱床は下戸層の礫岩層の基底部分に濃集している。なお、佐渡島全域において2億年以上の大陸基盤岩の形成から、日本海や佐渡島の誕生・変遷を物語る地質遺産が観察出来ることから、世界ジオパーク**(地球活動の遺産を主な見所とする公園)の認定に向けて取り組んでいる。

※ジオパーク

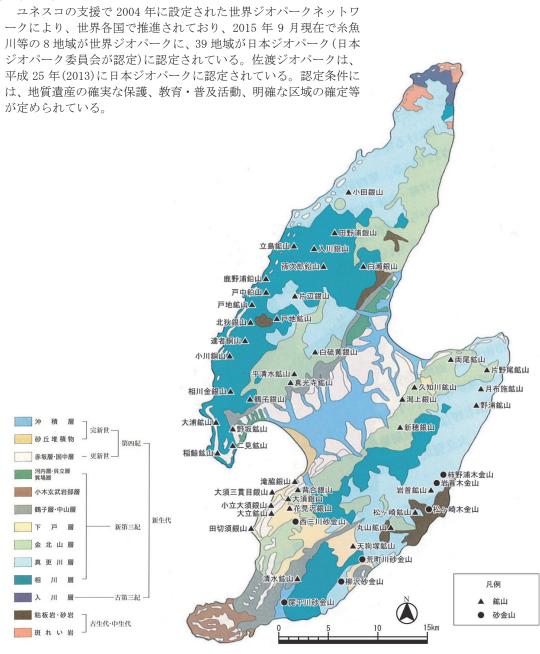


図 2-7: 佐渡島内の地質概略図 (新潟県(1989)を一部変更)

(4) 佐渡島内の金銀鉱山遺跡

佐渡島内には、採掘跡など鉱業生産の痕跡を示す遺跡が50ヶ所ほど確認されている。

中でも、平安時代にまで起源が遡るとされる「西三川砂金山」、江戸時代以前に開発された「鶴子銀山」と「新穂銀山」、江戸時代以降の国家財政を支えた「相川金銀山」の4鉱山が佐渡の鉱山史を物語る上で重要な遺跡であり、各時代の鉱業技術の変遷を示すものである。

史跡佐渡金銀山遺跡は、『今昔物語集』にも記述があり佐渡最古とされる「西三川砂金山」、16世紀に佐渡最大であった「鶴子銀山」と、江戸時代以降の我が国の鉱山を代表する「相川金銀山」、明治時代以降の鉱業近代化を牽引した近代遺跡などから構成される。

表 2-3: 佐渡島内鉱山遺跡一覧表

NO	地区名	山名(別名)	鉱山種別	時代	分布調査	遺跡 周知化	出典	絵図資料	備考
1	両津	白瀬銀山	銀山	江戸	無	無	佐渡年代記 佐渡国略記		
2	両津	久知川	鉱山	不明	不明	無	無		
3	両津	柿野浦木金山	砂金山	中世~江戸?	無	無	佐渡国略記	舟崎文庫	史料では「黄金間歩」の 名前が見える
4	両津	岩首木金山	砂金山	中世~江戸?	無	無			
5	両津	岩首鉱山	不明	不明	無	無			
6	両津	両尾鉱山	不明	不明	無	無			
7	両津	片野尾鉱山	不明	不明	無	無			
8	両津	月布施鉱山	不明	不明	無	無			
9	両津	野浦鉱山	不明	不明	無	無			
10	相川	相川金銀山(佐渡金山他)	金銀銅山	江戸~平成 元	H11~14	市No.302	佐渡年代記 佐渡国略記 他	舟崎文庫・ゴ ールデン佐渡 所有絵図他	県遺跡台帳「佐渡金山遺跡」、一部が国指定史跡。 H14・26年度分布調査報告書刊行
11	相川	茶屋平金山	金銀山	江戸	H17	無	佐渡国略記 他	舟崎文庫・ゴ ールデン佐渡 所有絵図他	開発時一鉱山として成立、後に相川金銀山の一鉱区となる。
12	相川	小田銀山	銀山	江戸	無	無		舟崎文庫	
13	相川	田野浦銀山 (小野見銀山・ 高千鉱山)	金銀山	江戸·近代 ~昭和 18	H11~14	市No.299	佐渡年代記 佐渡国略記 他	ゴールデン 佐渡所有近 代鉱区図	県遺跡台帳「小野見鉱山 遺跡」、近代以降「高千 鉱山」となる。H14年度 分布調査報告書刊行
14	相川	入川銀山 (高千鉱山)	銀鉛山	江戸·近代 ~昭和 18	H11~14	市No.300	佐渡年代記 佐渡国略記 他	舟崎文庫・ゴ ールデン佐渡 所有絵図・近 代図面類 他	近代以降「高千鉱山」と なる。H14年度分布調査 報告書刊行
15	相川	孫次郎鉛山 (入川鉛山・ 高千鉱山)	鉛山	江戸 ~昭和 18	H11~14	市No.300	佐渡年代記 佐渡国略記 他	舟崎文庫	近代以降「高千鉱山」と なる。H14年度分布調査 報告書刊行。報告書上 「入川鉱山孫次郎山」と 記載
16	相川	立島(嶋)鉱山 (高千鉱山)	金銀山	江戸·近代 ~昭和 18	H11~14	市No.301	佐渡年代記 佐渡国略記 他	ゴールデン 佐渡所有近 代図面類	近代以降「高千鉱山」と なる。H14年度分布調査 報告書刊行
17	相川	鹿野浦鉛山 (高千鉱山)	金銀銅鉛山	江戸 ~昭和 18	H11~14	市No.1171		ゴールデン 佐渡所有近 代鉱区図	近代以降「高千鉱山」と なる。H14年度分布調査 報告書刊行
18	相川	片辺鉱山 (与宗鉱山・ 松尾鉱山)	銅鉛山	江戸?	無	無			
19	相川	戸地鉱山 (カッコメ鉱山・ ウノクソ鉱山)	銀山?	江戸・ 近現代?	H11~14	市No.1173			H14年度分布調査報告書 刊行
20	相川	戸中鉛山	金銀銅鉛山	江戸・ 近現代?	H11~14	市No.1172	佐渡年代記 佐渡国略記		H14 年度分布調査報告書 刊行
21	相川	北狄銀山 (川内鉱山・ 吉兵衛鉱山)	銀山	江戸・ 近現代?	H11~14	市No.1174	佐渡年代記 佐渡国略記 他	ゴールデン 佐渡所有近 代鉱区図	H14年度分布調査報告書 刊行

NO	地区名	山名(別名)	鉱山種別	時代	分布調査	遺跡 周知化	出典	絵図資料	備考
22	相川	達者銅山 (小筵山鉱山)	銀銅山	江戸・ 近現代?	H11~14	市No.1175	佐渡年代記 佐渡国略記 他	ゴールデン 佐渡所有近 代鉱区図	H14年度分布調查報告書 刊行
23	相川	小川銅山	銅山	江戸・ 近現代?	H11~14	市No.1176	佐渡年代記 佐渡国略記 他	ゴールデン 佐渡所有近 代鉱区図	H14年度分布調查報告書 刊行
24	相川	大浦鉱山	銀山?	江戸	無	市No.303			
25	相川	稲鯨鉱山	銀山?	不明	無	無			
26	相川	二見鉱山	銀山?	江戸・ 近現代	H11~14	市No.304		ゴールデン 佐渡所有近 代鉱区図	H14年度分布調查報告書 刊行
27	佐和田	鶴子銀山 (西五十里銀山・ 屏風銀山)	銀銅山	室町 ~昭和 21	H14~19	市No.374, 443, 444	佐渡年代記 佐渡国略記 他	舟崎文庫・岩 木文庫・ゴー ルデン佐渡 所有絵図他	県遺跡台帳「鶴子銀山 跡」(鉱山遺跡)、「鶴子 銀山代官屋敷跡」(陣屋 跡)、「鶴子荒町遺跡」(集 落跡)。H19・21 年度分 布調査報告書刊行。H22 ~25 年度発掘調査。
28	佐和田	野坂鉱山	銀?	江戸?	無	市No.449			
29	佐和田	真光寺鉱山	金銀山?	不明	無	無			坑道崩落により埋没と いう
30	金井	平清水鉱山	不明	不明	無	無			坑道有り
31	金井	白硫黄銀山 (白岩尾銀山)	銀山	江戸	無	無		舟崎文庫	坑道有り
32	真野	西三川砂金山	砂金山	平安 ~ 明治 5	H11、14	市No.879 ~ 883,1184	佐渡年代記 佐渡国略記 他	舟崎文庫·金 子家·山本家 他	県遺跡台帳「西三川砂金 山跡」他、一部が国史跡。 H24年度分布調査報告書 刊行。H23~26年度発掘 調査。
33	真野	花見沢銀山	銀山	江戸	H14	市No.902	川上家文書		
34	真野	大須銀山	銀鉛山	江戸	H14	市No.839	佐渡年代記 佐渡国略記 他		県遺跡台帳「大須銀山遺 跡」
35	真野	大須三貫目銀山 (三貫目沢鉱山)	銀山	江戸	H14	市No.904			県遺跡台帳「三貫目沢鉱 山跡」 ※大須銀山の一部か
36	真野	滝脇銀山	銀山	不明	無	無	山本家文書	山本家	※背合銀山と同一か
37	真野	小立大須鉱山	不明	不明	H14	無			
38	真野	大立鉱山	不明	不明	無	無			
39	真野	田切須銀山 (西三川鉱山)	銀山	江戸·明治 ~大正	H25	市No.887, 888	佐渡年代記 佐渡国略記 他		県遺跡台帳「田切須大野 遺跡」(集落跡)、「田切 須鉱山跡」
40	真野	背合銀山	銀山	江戸	無	市No.840			県遺跡台帳上地点不明 ※滝脇銀山と同一か
41	新穂	新穂銀山 (滝沢銀山・ 瀧沢銀山)	銀山	室町~江戸	H12∼	市No.632	佐渡年代記 佐渡国略記 他	舟崎文庫·岩 木文庫·相川 郷土博物館 他	※分布調査中(H12~ 25・28年度)
42	新穂	潟上銀山	銀山	不明	無	無	佐渡国略記 他	相川郷土博物館	史料では「御城間歩」の 名前が見える
43	畑野	松ヶ崎木金山	砂金山	不明	無	無			
44	畑野	松ヶ崎鉱山	金山?	不明	無	無			坑道有り
45	畑野	丸山鉱山	不明	不明	無	無			
46	羽茂	尾平川砂金山	砂金山	不明	無	無			※尾平川流域か
47	羽茂	清水鉱山	不明	不明	無	無			
48	赤泊	天狗塚鉱山	金山?	不明	H22	無			坑道有り
49	赤泊	荒町川砂金山	砂金山	不明	無	無			※天狗塚鉱山下流部の 河川
50	赤泊	柳沢砂金山	砂金山	不明	無	無			※柳沢川流域か

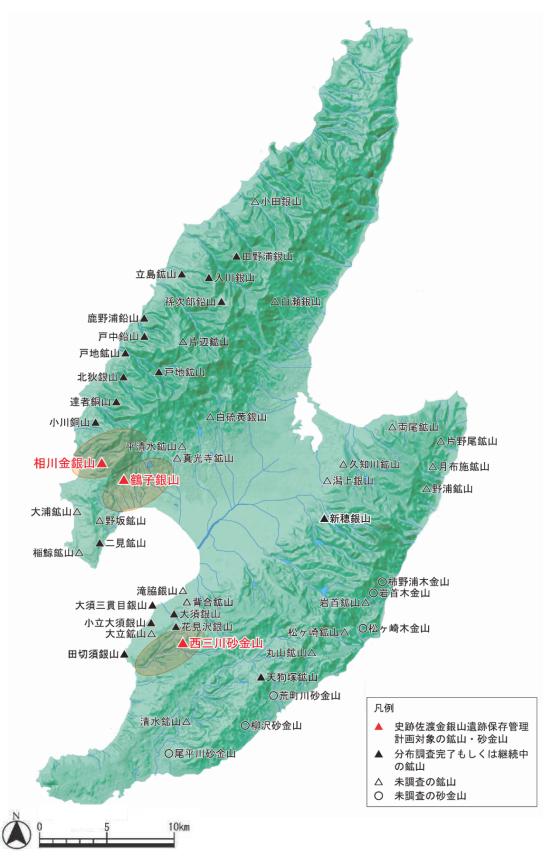


図 2-8: 佐渡島内鉱山遺跡分布図

2. 史跡の概要

(1) 史跡指定の経緯

佐渡金銀山遺跡の文化財指定は、昭和 4 年(1929)の佐渡奉行所址の国史蹟を嚆矢とし(昭和 18 年焼失のため指定解除)、昭和 33 年(1958)には、江戸期の金銀生産を管理した佐渡奉行所跡、採掘拠点である道遊の割戸などが「相川鉱山遺跡」として新潟県史跡に指定された。

昭和34年(1959)と昭和42年(1967)には、二度にわたり国史跡を目指し、国の文化財保護委員会からは指定の答申が出されたものの、諸般の事情により告示にまで至らなかった。

その後、平成6年(1994)に、佐渡奉行所跡、道遊の割戸と合わせ、時鐘を収めた鐘楼、江戸時代の代表的な坑道である宗太夫間歩などが「佐渡金山遺跡」として官報告示され国史跡に指定された。

また、平成11年(1999)以降、遺跡の実態把握と指定の拡大を目指した分布調査を行い、江戸時代の鉱石選鉱に使用した石磨(上磨)の材料供給地である吹上海岸石切場跡が、平成21年(2009)に史跡佐渡金山遺跡に追加指定され、平成22年(2010)には、明治時代からの近現代における採鉱、選鉱、製錬に関連する一連の生産拠点地区も史跡に追加指定となった。

平成 23 年(2011)、16 世紀に開発年代が遡る鉱山遺跡(銀山)である鶴子銀山跡が追加指定となり、史跡名称を「佐渡金山遺跡」から「佐渡金銀山遺跡」*へと変更した。

その後も、平成24年(2012)から平成27年(2015)にかけて、片辺・鹿野浦海岸石切場跡、上相川地区、 上寺町地区、相川金銀山跡、西三川砂金山跡、大間地区、戸地地区(追加)が順次追加指定を受けた。

表 2-4: 史跡指定の経過

年	説明
昭和 4年	佐渡奉行所址が国史蹟に指定される。
昭和 17 年	佐渡奉行所址の建物が焼失。
昭和 18 年	佐渡奉行所址の国史蹟指定が解除される。
昭和 24 年	この頃から佐渡金銀山遺跡の史跡指定を目指す動きが再び起こる。
昭和 33 年	3月22日付け新潟県教育委員会告示第11号をもって、佐渡奉行所跡、道遊の
	割戸、南沢疎水道、河村彦左衛門供養塔、大久保長安逆修塔、鎮目市左衛門墓、
	御料局佐渡支庁跡が「相川鉱山遺跡」として新潟県史跡に指定される。
昭和 34 年	佐渡奉行所跡などの国史跡を目指したが、指定までには至らなかった。
昭和 42 年	再度、佐渡奉行所跡などの国史跡を目指したが、指定には至らなかった。
平成 6年	5月24日付け文部省告示第73号をもって、佐渡奉行所跡、道遊の割戸、宗太
	夫間歩、南沢疎水道、鐘楼、河村彦左衛門供養塔、大久保長安逆修塔、御料局
	佐渡支庁跡が「佐渡金山遺跡」として国史跡に指定される。
平成 21 年	7月23日付け文部科学省告示第119号をもって、吹上海岸石切場跡が国史跡佐
	渡金山遺跡に追加指定される。
平成 22 年	2月22日付け文部科学省告示第18号をもって、近代遺跡である大立地区、高
	任・間ノ山地区、北沢地区、戸地地区が国史跡佐渡金山遺跡に追加指定される。

年	説明
平成 23 年	1月20日付け文化庁告示第9号をもって、佐渡市が史跡佐渡金山遺跡を管理す
	べき地方公共団体に指定される。
平成 23 年	2月7日付け文部科学省告示第15号をもって、鶴子銀山跡が国史跡佐渡金山遺
	跡に追加指定される。併せて史跡名称を「佐渡金山遺跡」から「佐渡金銀山遺
	跡」に変更する。
平成 24 年	1月24日付け文部科学省告示第9号をもって、片辺・鹿野浦海岸石切場跡及び
	鶴子銀山跡の一部が国史跡佐渡金銀山遺跡に追加指定される。
平成 25 年	3月27日付け文部科学省告示第46号をもって、上相川地区が国史跡佐渡金銀
	山遺跡に追加指定される。
平成 26 年	10月6日付け文部科学省告示第142号をもって、上寺町地区が国史跡佐渡金銀
	山遺跡に追加指定される。
平成 27 年	3月10日付け文部科学省告示第44号をもって、相川金銀山跡が国史跡佐渡金
	銀山遺跡に追加指定される。
平成 27 年	10月7日付け文部科学省告示第173号をもって、西三川砂金山跡、大間地区、
	戸地地区(追加)が国史跡佐渡金銀山遺跡に追加指定される。

※「佐渡金銀山遺跡」の名称とその対象について

佐渡には、多様な鉱物に関わる多くの鉱山遺跡が分布している。一般的に佐渡は「金の島」としてイメージされているが、金のみでなく、銀も大量に採掘されていた。また、銅の採掘も行われ、まさに鉱山の島として、多くの鉱山遺跡が確認されている(第 Π 章 1. (4)参照)。

佐渡島では平安時代以降、こうした鉱物の採掘が継続的に行われ、各時代の採掘遺跡が残っているが、鉱物の採掘形態も時代によって大きく変遷し、長い間の鉱山技術の変遷を目の当たりにできる希有な地域といえる。これら佐渡の鉱山遺跡群の中で代表的なものとして、開発の順でいえば、「西三川砂金山」、「鶴子銀山」、「新穂銀山」(未指定)、「相川金銀山」があげられる。

昭和33年に新潟県の史跡に指定された際の名称は「相川鉱山遺跡」であり、その名が示すように「相川金銀山」に関連する遺跡が指定の対象となっており、平成6年の国史跡「佐渡金山遺跡」指定は県史跡指定物件の一部変更はあったものの、県史跡相川鉱山遺跡を踏襲したものであった。その後、市町村合併によって佐渡一島を行政域とする佐渡市が誕生し、改めて日本のみならず世界的にも貴重な遺跡として佐渡全域を視野に入れた鉱山遺跡の追加指定や、関連する文化遺産の一体的保存と活用等を講じることとなった。平成23年に「佐渡金銀山遺跡」と名称変更されたが、これは、相川金銀山に関連する遺跡のみならず、鶴子銀山等、上記の佐渡を代表する4つの鉱山遺跡とこれらに関連する遺跡を、「佐渡金銀山遺跡」として捉えたものである。

(2) 史跡指定の内容

史跡名称

佐渡金銀山遺跡 (さどきんぎんざんいせき)

所在地

新潟県佐渡市相川江戸沢町1番6ほか880筆等

管理団体指定年月日

管理団体: 佐渡市 告示年月日 平成23年1月20日 告示番号 文化庁告示第9号

指定対象地域、面積、指定基準、指定年月日

	名称	面積	指定基準 ※	指定年月日(告示番号)
1.	西三川砂金山地域		•	
	1-1 西三川砂金山跡	284, 835. 150 m²	史2.3.6.7	平成 27 年 10 月 7 日(文部科学省告示第 173 号)
2.	鶴子銀山地域			
	2-1 鶴子銀山跡	1, 724, 487, 920 m ²	史 2・3・6・7	平成23年2月7日(文部科学省告示第15号)
	2-1 鶴丁蚁山坳	1, 724, 407. 920 111	文 2.3.0.1	平成24年1月24日(文部科学省告示第9号)
3.	相川金銀山地域			
	3-1 相川金銀山跡	2, 170, 993. 080 m ²		平成 27 年 3 月 10 日(文部科学省告示第 44 号)
	3-2 道遊の割戸	30, 656. 000 m²		平成6年5月24日(文部省告示第73号)
	3-3 宗太夫間歩	117. 515 m²		平成6年5月24日(文部省告示第73号)
	3-4 南沢疎水道	288. 480 m²		平成6年5月24日(文部省告示第73号)
	3-5 大立地区	110, 844. 400 m ²		平成 22 年 2 月 22 日(文部科学省告示第 18 号)
	3-6 高任・間ノ山地区	73, 060. 570 m ²		平成22年2月22日(文部科学省告示第18号)
	3-7 北沢地区	62, 020. 520 m²		平成22年2月22日(文部科学省告示第18号)
	3-8 御料局佐渡支庁跡	2, 259. 590 m²		平成6年5月24日(文部省告示第73号)
	3-9 戸地地区	4, 795. 790 m²		平成 22 年 2 月 22 日 (文部科学省告示第 18 号)
	3-9 广地地区	4, 795. 790 III		平成27年10月7日(追加)(文部科学省告示第173号)
	3-10 大間地区	34, 856. 390 m²	史 2・3・6・7	平成 27 年 10 月 7 日(文部科学省告示第 173 号)
	3-11 上相川地区	272, 903. 360 m²		平成 25 年 3 月 27 日(文部科学省告示第 46 号)
	3-12 上寺町地区	97, 751. 230 m²		平成 26 年 10 月 6 日(文部科学省告示第 142 号)
	3-13 佐渡奉行所跡	18, 673. 000 m ²		平成6年5月24日(文部省告示第73号)
	3-14 鐘楼	81. 240 m²		平成6年5月24日(文部省告示第73号)
		07.700 2		T-10 F F F F O 1 F (
	3-15 大久保長安逆修塔	37. 730 m ²		平成6年5月24日(文部省告示第73号)
	3-16 河村彦左衛門供養塔	33. 270 m ²		平成6年5月24日(文部省告示第73号)
	3-17 吹上海岸石切場跡	12, 949. 400 m ²		平成 21 年 7 月 23 日 (文部科学省告示第 119 号)
-	3-18 片辺・鹿野浦海岸石切場跡	140, 565. 330 m ²		平成24年1月24日(文部科学省告示第9号)
	指定面積 合計	5, 042, 209. 965 m²		

※指定基準 「史」:「史跡の部」の略

史2:都城跡、国郡庁跡、城跡、官公庁、戦跡その他政治に関する遺跡

史3:社寺の跡又は旧境内その他祭祀信仰に関する遺跡

史6:交通・通信施設、治山・治水施設、生産施設その他経済・生産活動に関する遺跡

史7:墳墓及び碑

所有関係

1	国有地		159, 473. 97 m ²
2	県有地		61, 010. 53 m ²
3	市有地		3, 273, 363. 10 m ²
4	民有地	(781名)	1, 458, 918. 06 m ²
5	小計		4, 952, 765. 66 m ²
6	誤差		▲89, 444. 30 m ²
6	合計		5, 042, 209. 96 m ²

- ※④追加指定地の所有者に、既指定地の所有者が15名含まれているため、所有者数は差し引き後の人数。
- ※⑥誤差の数値は、座標値により求めた既指定地と追加指定地の実測面積合計⑦と、土地登記簿謄本の面積を積み上げた面積合計⑤との間で生じた誤差。
- ※⑦合計面積は上記理由を踏まえ座標値により求めた実測面積による。

(3) 史跡の位置

史跡佐渡金銀山遺跡は、「西三川砂金山地域」、「鶴子銀山地域」、「相川金銀山地域」の3つの地域から構成される。

西三川砂金山地域の西三川砂金山跡 (1-1) は、佐渡島の南西部に立地し、西三川川河口から約4km上流の西三川川と笹川川に挟まれた小佐渡山麓の丘陵地に位置する。

鶴子銀山地域の鶴子銀山跡(2-1)は相川金銀山の山の内地域から南側にある沢根から相川下戸村の山林に立地する。

相川金銀山地域は、相川市街地を中心に分布する佐渡奉行所跡など江戸時代の遺跡及び近現代の 遺跡群が集中する。

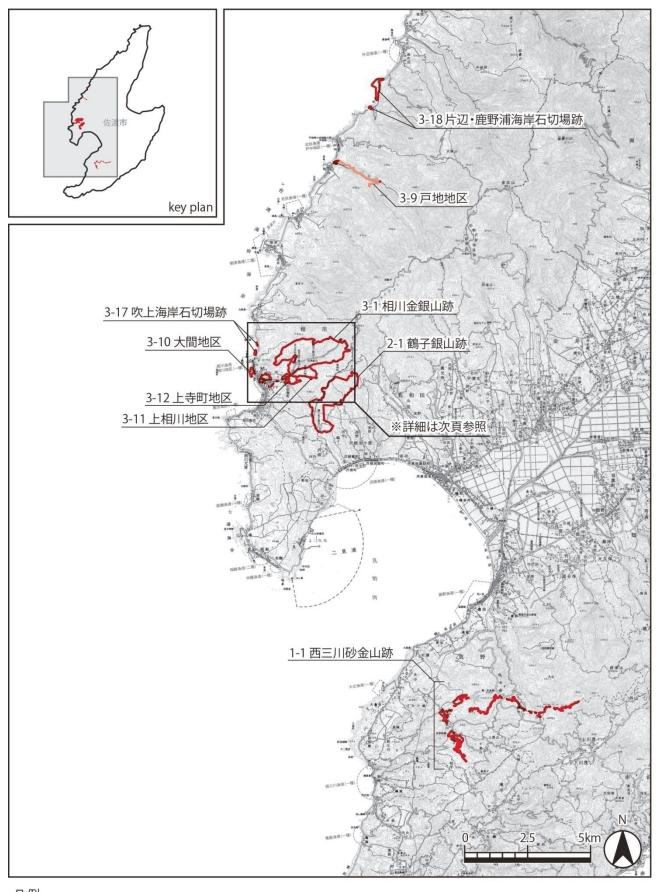
相川市街地は、海岸部の低地に沿って南北に延びる「下町」と、緩い傾斜をもった段丘上の東西に延びる「上町」からなり、T字状を呈している。さらに、ここより濁川に沿った東方の山奥に「山の内」地域が広がり、古道を介し鶴子銀山跡へ通じている。この山の内の山域に佐渡金銀山跡(3-1)、道遊の割戸(3-2)、上相川地区(3-11)、上寺町地区(3-12)が位置する。

道遊の割戸の南西側には近代施設が集中する高任・間ノ山地区(3-6)が隣接し、北東側には大立地区(3-5)が所在する。さらに道遊の割戸から西部には宗太夫間歩(3-3)が位置する。

相川市街地は水金沢と濁川、間切川(南沢)によって南北に3つに分断されるが、濁川と間切川によって形成された上町台地と呼ばれる南側の尾根の先端部に佐渡奉行所跡(3-13)と鐘楼(3-14)が立地する。

相川市街地の北側を流れる濁川の南側の上町台地と北側の下山之神台地に挟まれた沢の両岸には、近代施設が集中する北沢地区(3-7)が位置し、その西端には御料局佐渡支庁跡(3-8)が所在する。また、上町台地の南端に隣接する下寺町区域に大久保長安逆修塔(3-15)、河村彦左衛門供養塔(3-16)、南沢疎水道(3-4)が所在する。

海岸沿いにも史跡は分布しており、相川市街地の北端部に大間地区(3-10)、相川市街地の北方、下相川地内の海岸段丘崖下の「吹上」とよばれる海岸部の標高0~20m付近に吹上海岸石切場跡(3-17)が所在する。また、片辺・鹿野浦海岸石切場跡(3-18)と近代遺跡の戸地地区(3-9)は、吹上海岸よりさらに北側の外海府海岸沿いに所在する。なお、吹上海岸石切場跡と片辺・鹿野浦海岸石切場跡は国名勝の佐渡海府海岸の範囲内である。



凡例

史跡指定地 史跡指定予定地

図 2-9: 史跡佐渡金銀山遺跡位置図 (1/2)

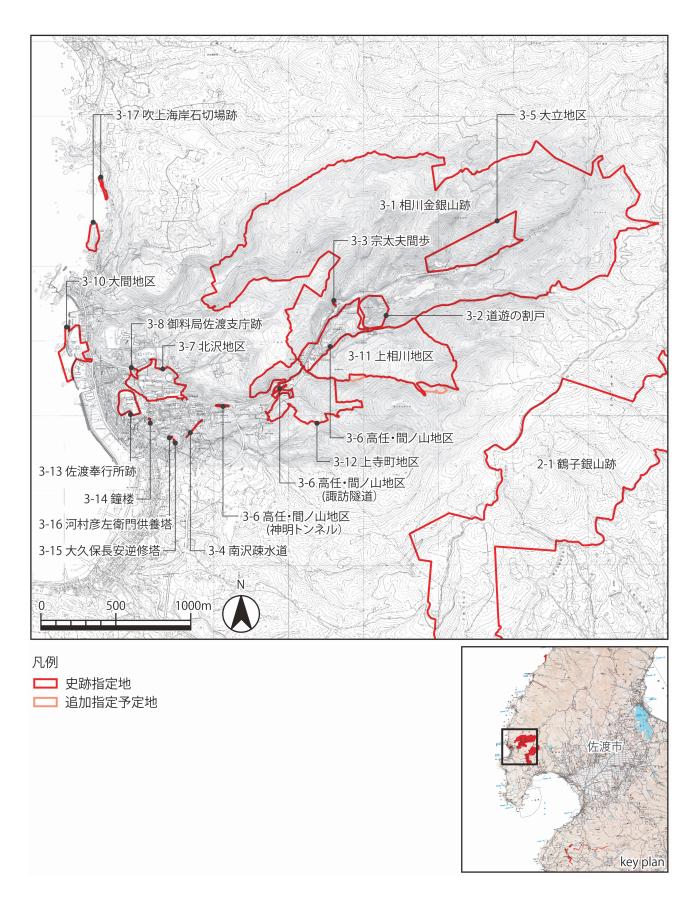


図 2-10: 史跡佐渡金銀山遺跡位置図 (2/2)

(4)歷史的変遷

1) 江戸時代まで

中世末期の佐渡においては、西三川砂金山、鶴子銀山、新穂銀山*等が主要な金銀山であった。 また、近世には、当時の我が国最大の金銀山であった相川金銀山が開発され、佐渡から産出された 金銀は幕府の財政を支えた。

西三川砂金山は、11世紀末に成立したとされる説話集『今昔物語集』に登場する佐渡最古の金山ともいわれ、明治5年(1872)まで稼がれた砂金山であり、これまでの調査で安土桃山時代から近代初頭に至る砂金採取の技術を示す遺構群と砂金採取集団によって成立した集落跡が確認されている。

鶴子銀山は、相川金銀山が開発されるまで佐渡最大の鉱山であり、露頭掘り跡や間歩群などの採掘跡と、代官屋敷跡などの鉱山経営関連遺構などから成る。これまでの調査で自然地形を利用した テラスや道跡・井戸跡などの遺構が確認され、職住一体の生産活動が行われていた可能性が高い。

相川金銀山は、16世紀末から20世紀末まで我が国最大の金銀産出量を誇った鉱山で、これまでの調査で鉱山と鉱山経営に関連する遺跡が確認されている。その端緒となった上相川地区は、16世紀末に成立した鉱山集落で、それまでの小規模な生産単位とは異なった生産活動の誕生を示す20haを超える広大な遺跡である。江戸時代初期、大久保長安が相川に陣屋を築いて以後、鉱山管理と金銀の集積機能を併せ持った陣屋から、第一の稼ぎ場所である割間歩へ1本の道がつけられた。その道を軸として地割りがなされ、鉱山町が誕生した。記録によれば、道の両側には選鉱業者たちの家が建ち並んでいたという。

また、こうした生産形態は時代が下るとさらに集約化され、宝暦9年(1759)、それまで町中に散在していた勝場(選鉱場)や床屋(製錬場)などの作業場を奉行所内に集約するため寄勝場を設置し、作業の効率化を図った。しかし、18世紀の半ばからは、鉱脈の質の低下や間歩の水没などにより金銀の産出量が低下したが、幕府によるさまざまな対策の下、盛衰を繰り返しながら、幕末を迎えた。

※新穂銀山

16世紀には鶴子銀山に匹敵した鉱山であり、これまでの分布調査により採掘跡と集落跡が確認されている。江戸初期には相川金銀山の山師も加わって、幕府による経営が行われたが、慶安2年(1649)の大盛りを最後に衰微した。

2)明治時代以降

佐渡金銀山は、近代的な鉱山技術を導入し発展させることによって、明治時代以降も国内有数の 鉱山として操業を続けた。

① 官営「佐渡鉱山」と技術の近代化

明治維新以降の近代日本は、殖産興業の柱として鉱業を位置付け、欧米の先進技術を導入して その近代化を図った。佐渡鉱山は維新直後には鉱山司、明治3年(1870)以降は工部省所管であっ たが、明治元年(1868)から同17年(1884)まで外国人技術者を雇用しており、明治6年(1873)には 外国人技術者6名、官員35名、技術者12名という官営鉱山最大の人員を擁した。そして、搗鉱 法、混澒製錬法などの先端技術や溶鉱炉、コークス炉、分銀炉等の様々な外国製の機器の試験的 導入が行われ、官営鉱山として近代化を進め民間の鉱山を先導するという役割を担った。この時 期の建造物はほとんど現存していないが、大立竪坑はこの時期に開削が開始された。

明治 18 年(1885)に工部省が廃止されると、佐渡鉱山は大蔵省の所管となり、さらに明治 22 年 (1889)に皇室財産に編入され、宮内省御料局所管となった。明治政府はこの前後から欧米の技術

者・機器から日本の技術者・機器への変換を図りはじめた。佐渡鉱山においても大島高任、渡辺渡らが中心となり、沈殿製錬法の導入、高任竪坑、高任選鉱場、間ノ山搗鉱場、大間港などの整備が行われた。また、明治23年(1890)には佐渡鉱山学校が開校し、近代化を担う技術者の育成においても佐渡鉱山が重要な役割を担った。

②民間払下げと三菱時代

明治29年(1896)には民間へ払い下げとなり、三菱合資会社の経営となったが、明治時代末期から大正時代には官営時代の採鉱・製錬システムを継承・発展させ、青化製錬法の導入、動力を蒸気力から電力へ転換するなどの設備更新が行われた。また、大正7年(1918)以降研究が進められてきた浮遊選鉱法が昭和7年(1932)に導入された。北沢地区の北沢青化・浮選鉱所、北沢火力発電所はこの頃の設備更新を物語るものである。

③昭和初期の大増産

日中戦争が開戦した昭和 12 年(1937)以降、国策の要請により国内の鉱山は大増産体制がとられた。佐渡鉱山では大立竪坑で月産 5,000t から 30,000t、高任竪坑での月産 5,000t から 15,000t への増産が計画され、施設の整備が進められた。選鉱・製錬法では低品位鉱(相川海岸に堆積する浜石が供給された)を対象とした浮遊選鉱法の開発・実用化が進められた。その結果、北沢地区の浮遊選鉱場、50mシックナーが完成した昭和 15 年(1940)には明治時代以来最高の産金量を記録した。

④戦後の佐渡鉱山

戦後は戦時中の無計画な増産によって資源が枯渇し、昭和28年(1953)に延命のための大縮小が決定され、多くの施設が廃止された。しかし、高品位鉱脈が発見されることはなく、わずかに残っていた残鉱も枯渇したことから、平成元年(1989)に休山となった。

3) 近現代の生産システムの変遷

佐渡金銀山遺跡は日本を代表する金銀山遺跡であり、現在も生産最盛期の建物やその機械類等、 近現代の生産システムに関連する鉱山施設が数多く残る。

主要な鉱山施設は相川地域(旧相川町)に多く遺存し、ここでは主に「採鉱・選鉱・製錬」が行われた。大立地区では「採鉱」、高任・間ノ山地区では「採鉱・選鉱・製錬・運搬」、北沢地区では「選鉱・製錬・火力発電」、大間地区では「運搬・火力発電」が行われ、また、戸地地区では「水力発電」が行われた。

ここでは佐渡金銀山が稼働していた当時、各地区の施設と機能を図 2-11 に示し、近現代の生産システムの流れを整理した。また、施設の変遷や主な機能と工程を表 2-5、図 2-12 にまとめた。特に、新たな製錬法の導入や動力の転換等、大きな転換期のあった年に着目し、当時の生産システムの主要工程を担う施設についてその変遷を図 2-13 から図 2-16 に示した。

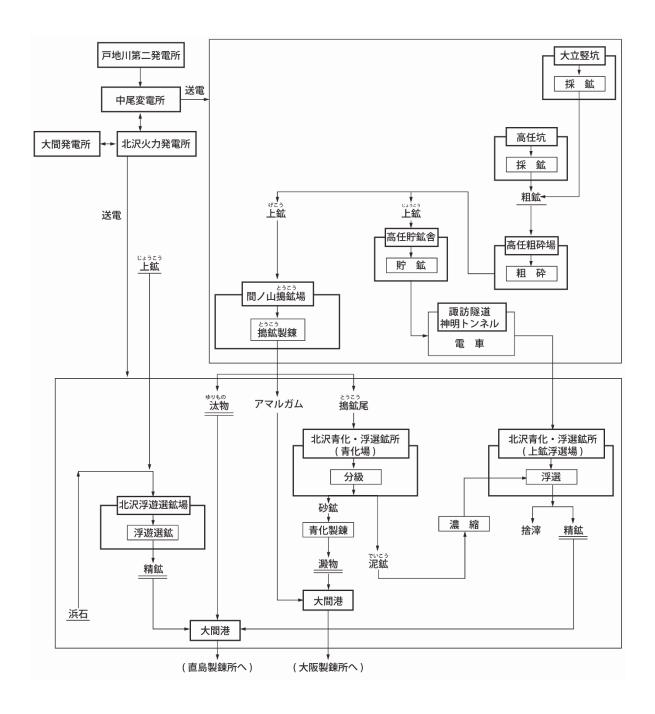


図 2-11 施設の分布と機能(昭和 15 年頃)

表 2-5 施設変遷年表 (第 I 期計画より作成)

		表(第Ⅰ期計画より作成)	1010	400	6	25	E	1055	1075	E 1000 10	0000	
西暦 元号	江 戸	明治	1912	大正		35 194	昭 和	1955 1965		5 1989 19 平	成	 施設の主な機
1 地区	採掘の開始と 鉱山町の形成	年 10年 20年 30 ~M20頃 大規模採掘の開始	0年 40年 44年 1年 ~T8頃 大工場		1年 10	年 20: \$15~17年 最拡大期	·	8 大縮小 40年	50年 60年	F 64年 1年 10: H1 休山	至 20年	が必要の工では
		M10?大立竪坑櫓(木造)				S13 工事着手 S15 大立竪坑	櫓(鉄骨)	(\$30頃縮小)		(H1稼働休止・竪坑閉塞)	(H15頃補修)	
大立		M8 開削着手 		揚機(電気)		813 工事着手 815 大立竪坑	捲揚室・捲揚機	(S30頃縮小) (S43~44:	コンプレッサー室増設)	(H1稼働休止)	(H15頃補修)	採鉱
	(慶長6年~) 道遊の割戸の	M10 馬紋軍(馬力) M20 高任竪坑				(S10鉄骨製櫓完成、S13竪坑改修)		(S28橹規模縮小)				 採鉱
	開削が始まる	M18 工事着手 ※M18~22頃	M32 道遊坑(M43坑)	口改修)		(\$15頃 内部コンク	リート造・石造)					および運搬
	(慶長期)上相川で	大島高任が道遊の割戸の 大規模な露頭掘採掘を行う	※M33 道遊の露頭掘り中止			S15 上相川火	薬庫(S20 閉鎖)			(H1? 解体)		
	初期の鉱山町が栄える						工場 (\$14頃 西棟増築、	. c20 車 棒 + + + + + + + + + + + + + + + + + +			(H17増改築)	採鉱
		NOCES	₩ — 10 W 10	T0.55 . L/T0 L P	ナ (5 左	S12 粗砕場	上勿(314頃 四株培業、7			(H1稼働休止)		管理
高任・		M20頃 t===	第二搗鉱場 	18廃ഥ(19~上座	を圧気機室へ転用) ===========	===		(SB3頃 増改築?)		(H1稼働休止)	(H17機械塗装)	選鉱
間ノ山						S13 貯鉱舎		(? 建具等改変?)		(H1稼働休止)	(H20屋根補修)	貯鉱・運搬
		M26頃 : c = = =	第二搗鉱場 		を圧気機室へ転用) ===========	S14~16頃 圧気	機室	(S28頃~ 分析所へ変更)	(~S55頃 現在G	(H1稼働休止)		管理
		t===	 +=======	:=====	==========	S13~30頃 中尾変	官所		(S?改修)		内部改修)	 動力
	(慶長期)来島した山仕が左沢流域を	M24頃 第 C====		3鉱場増築 T13	搗鉱場(焼失、復旧)	(\$18閉鎖)	(~\$	33上屋・機械撤去)			(H21植物撤去)	選鉱・製錬
	開発					S13~ 間ノ山上橋						
		木製橋	M37 間ノ山コ	「橋								運搬
						(\$15頃 蓄電池式鉱車 ~\$14 調動旅途道	^{整備)} ・神明トンネル(S	\$28 閉鎖) (? 上屋・軌道撤去)				建 加
	(江戸年間)	(~M14頃		施設夕称 M24	完成「沙殿赳錬所」			200 国现代 (: 工注 特起服力/				
	製錬業者の町が形成される	北沢地区が佐渡 鉱山の製錬の 地 は なる	25 北沢青化·浮選 <u>鉱</u> 店	所 M37~「泥鉢雪	製鍊場」 ※沈澱製鍊→青化製鍊	S7 「旧北沢青化・浮選鉱所」(S18頃?	閉鎖、上屋撤去)					選鉱・製錬
		==== <u>M25頃</u>	<u> </u>									運搬
		製錬所関係建物 ~ M25 混淆所、	淘汰所、溶鉱所等 ※M37 沈殿	製錬法・混淆製錬法廃止	※\$6~18浜石村	RT S12 北沢浮遊選鉱場	インクライン (S	18 上屋半分を供出、S27 閉鎖)				
北沢		製錬所関係建物 ~M25 コークス				※S11 工事着手 S17 50mシック		(\$28 閉鎖、屋根撤去)				選鉱
		製錬所関係建物 ~M25 混淆所等	M41 dk	 沢火力発電所発 [†]	- <i></i> 雷機室棟	※814 工事着手		(\$28 閉鎖) (\$40頃 改	修)			
		.======================================	†========	//////////////////////////////////////	也成立1本	S11~ 工作工場群			等学校プール建設)	(H10	~21 発掘調査、整備)	動力
			₩29 御料局佐渡支庁、	 M29 鉱山本部基	 [[]	(~\$12 窓等改修)		(S28 閉鎖) (S31 相川郷土博物館として)		(110	21 万0加加州五、正加	
		' -		III ZO SIZI IZI PT IZI P	- 93171	~S11 旧鉱山本部事務所						管理
	/m = +0\ -10 - 11	製鍊所関係建物 ~M25 御料局支	<u> </u>					(S28 閉鎖) (S31 相川郷土博物館として)				-
	(慶長期)大間より 南の海岸沿いに 町が形成される		護岸(人造石)					(S33頃 鉱車軌道撤去等)		(H1 稼働休止)	(H20 広場整備)	
		M19~ 工事 ※M20頃 北沢-大間間に 架空素道架設		<u> </u> [1	年間~S初期 木造トラス橋 ==========	~\$20年介 (~\$13 北側2基上部增築)	トラス橋			(H1 稼働休止)	(H21 落下防止工事)	
		(北沢地区造成 (北沢地区造成 残土を大間埋立 に使用)、S12廃止	海浜-	.T3 クレーン台	座(北側2基)	S10 クレーン台座(南側1基	<u>(</u>	(? クレーン撤去)		(H1 稼働休止)		運搬
大間		に使用が、切に廃止				_{海浜→} S13頃 ローダー橋(南:	(2本)	(? 軌道撤去)		(H1 稼働休止、北側橋脚	部のみ現存)	
			~:	大正年間 煉瓦倉	庫(1)					(H1 稼働休止)		
			~;	大正年間 煉瓦館	庫 (2)					(H1 稼働休止)		
			~-	大正在問 拴鉱會	 庫(1)、捨鉱倉庫(2			(S33頃 捨鉱倉庫(2)改修		(H1 稼働休止)		貯鉱・運搬
				八正一门	序(I/ 、	813~15 鉱石倉庫						(一時保管)
						(S18 発	電所の半分が供出される)	(S33頃 改修または建替)		(H1 稼働休止)		
						S15 大間発電		(S28 稼働停止、発電設備輸出)	(上屋撤去)	(H1 稼働休止)		動力
					一発電所 [史跡指定範囲外]				(S52 閉鎖、?解体)			
戸地			M45~	· 工事着手 T8 戸地川	第二発電所			(? 增築)	(S52 閉鎖)		(H15 外部補修)	動力
				T6~ 工事着手								
、製錬 発展		近代操業法の基礎形成沈澱繁			鉱炉製錬の中止と 浮遊選録 島精錬所への出荷 の導			銅鉱山として稼働		観	光鉱山	主要行程
	相川本和市	M2~19 /左海針山 M22~29								II1	壮 海針山	その他
の名称	相川金銀山 /佐渡奉行所	M2~18 佐渡鉱山 M22~29 /工部省佐渡出張所 佐渡鉱山			M29~H1 佐渡鉱山/三菱	合資会社→三菱鉱業㈱→太平	「業株)→三菱金属鉱業	Ě㈱→佐渡金山㈱		/(株)ゴールラ	佐渡鉱山 ジン佐渡・佐渡市 途民間会社が管理	

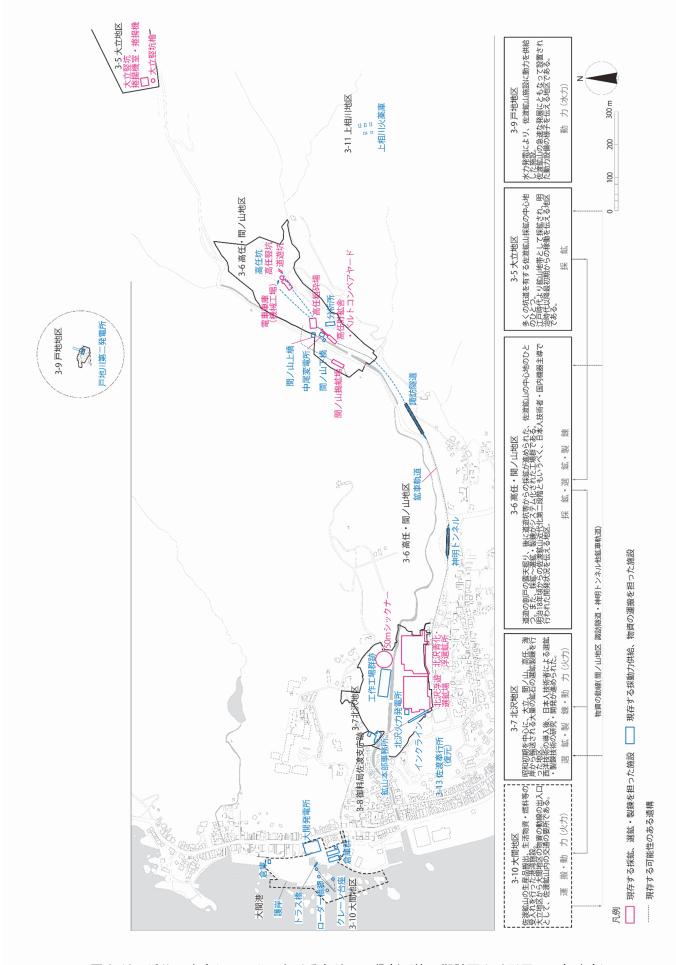


図 2-12 近代の生産システムにおける各地区の役割(第 I 期計画より引用、一部改変)

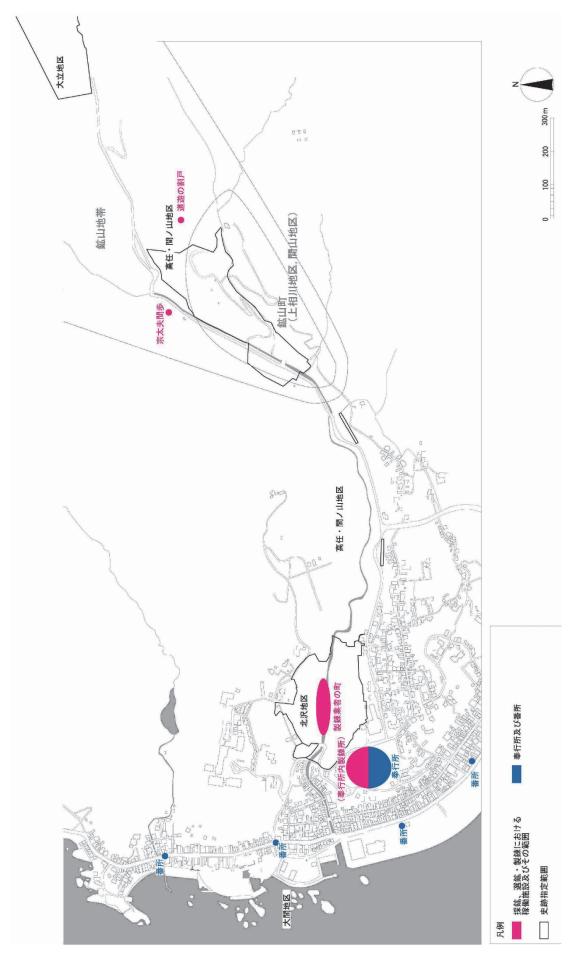


図 2-13 施設分布の変遷(近世末期)(第 I 期計画より引用)

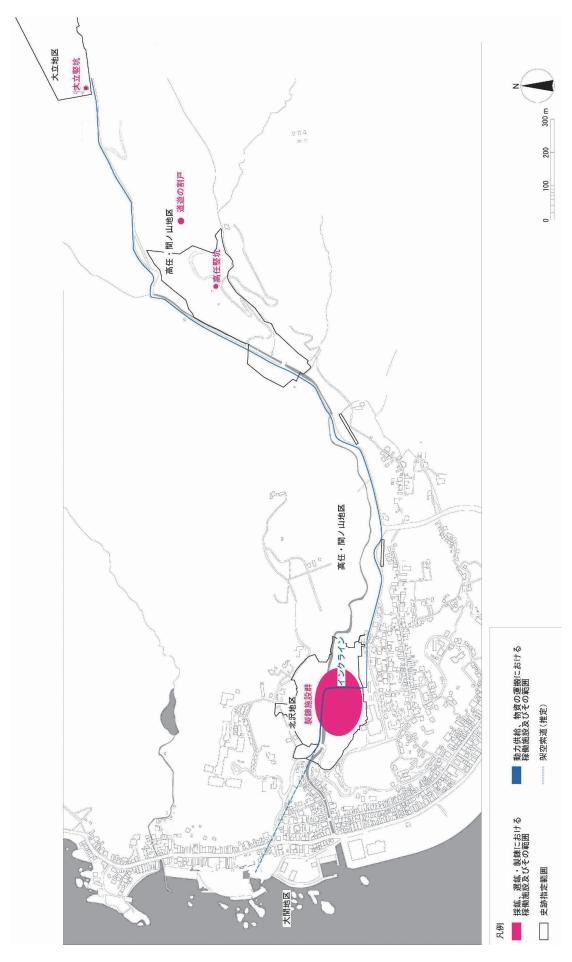


図 2-14 施設分布の変遷 [明治 20 年(1887)頃] (第 I 期計画より引用)

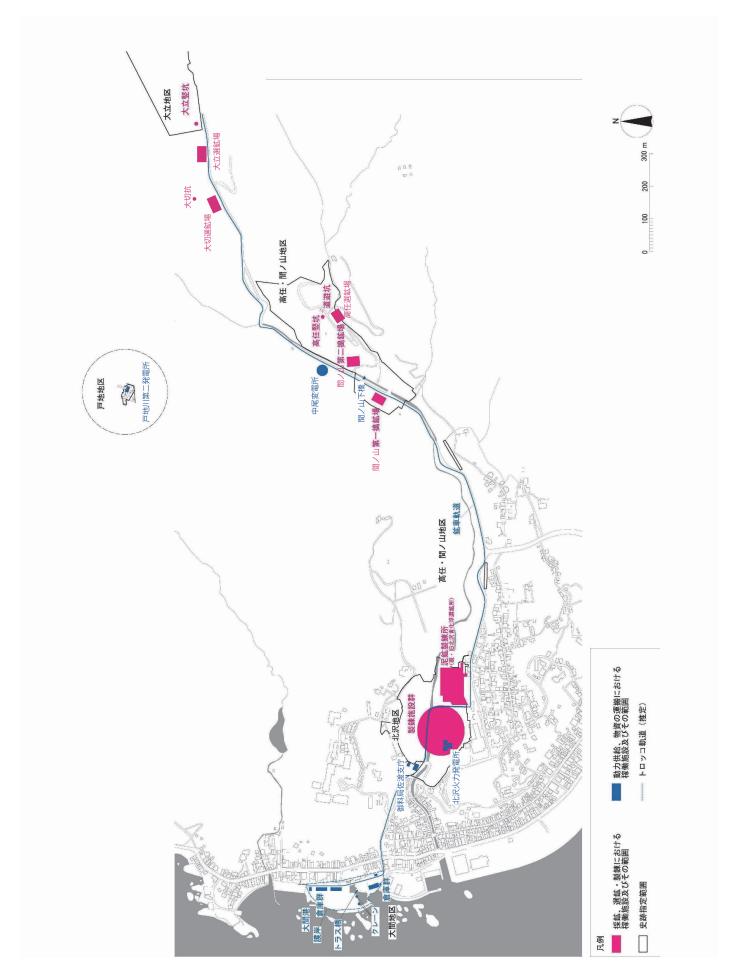


図 2-15 施設分布の変遷 [大正 8 年(1919)頃] (第 I 期計画より引用)

